

第5回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)6月14日(月) 18時00分～19時30分		
場所	長野県伊那合同庁舎 講堂		
出席	懇話会構成員24名		
欠席	河野 宏、松尾 穂野香、伊東 琴音	傍聴者	傍聴21名、報道5社
事務局	伊那北高校	山岡教頭(事務局長)、大石教諭、倉石教諭、齋藤教諭、山崎教諭	
	伊那弥生ヶ丘高校	藤澤教頭(副事務局長)、唐澤教諭、濱田教諭、春日教諭、原教諭	
	県教育委員会	駒瀬室長、田中主任導主事、石井主事、村澤担当係長、小松主任、浅井主事、倉澤主事	
当日資料	第5回懇話会次第、第4回懇話会まとめ、伊那新校で育てたい人材像や学校づくりについて、郷土愛プロジェクトについて		

会議事項

- 1 報告 (1) 第4回懇話会まとめ (2) 校地検討部会報告
 2 会議 (1) 「郷土愛プロジェクト」の取組について (2) 意見交換(伊那新校の学びのイメージについて)
 3 連絡事項 次回予定(令和3年7月27日)

「郷土愛プロジェクト」の取組について及び意見交換

【「郷土愛プロジェクト」の取組について】

<郷土愛プロジェクトとは>

○コンセプトは、「地域に学び 地域をつなぐ 地域の力でふるさとの未来をつくる」。「学校支援」事業では学校のめあてに添った活動のコーディネートやサポートを行っている。

<高校へのサポートの経過と現状>

- 伊那北高校：地域で活躍する大人を招き、生き方・働き方に学ぶ。自己で立てた問いをもって地域を巡り、それをもとに課題を見出し、仮説を立てて、調査分析しまとめる。
 ○伊那弥生ヶ丘高校：自分で決めた課題を地域の講師とともに、継続的に探究し、自らの体験を通して、地域とのかかわりの中で学びを深める。

<今後の構想と取組>

- 産学官ビジョンの共有。幼保小中高大・社会のつながりを作る。上伊那郡内の高校へのよりよい支援を目指す。
 ○子ども達の学びのニーズに応え、生徒も教員も担当者も協働して学んでいけると良い。新校を考える上で、地域教育の一つの資材となしてほしい。

【意見交換】(伊那新校の学びのイメージについて)

<生徒の学校生活(生徒会活動、クラブ活動)について>

- 人を頼る重要性、一つのことをやり遂げることの重要性を学ぶことができた。
 ○未来の高校生には、「今を大切にすること」、「フィードバックすること」を大切にしてほしい。
 ○人と関わる中で、失敗や反省したことや、他人のアドバイスや忠告から現状と向き合うことができるようになった。
 ○様々な活動に自発的に取り組んで、それが実践的かつ長期的な活動になれば良い。
 ○コミュニケーションをする場面を設けていただき、その能力を高めてほしい。
 ○部活動からは、仲間の大切さ、協調性を学び、コミュニケーション能力を高め、自分を表現する力をつけてくれた。

<地域との関わりについて：大学関係者から>

- 高校では、①理科・英語等の基礎学力 ②論理的思考力 ③自発的な行動ができる ことを身につけてほしい。
 ○少子化や高齢化で今の子どもは、生活体験が少なくなっていると思う。大学に入るまでに生活体験をしてきてほしい。
 ○探究学習で医療や福祉という点でのサポート。大学の施設を使うこともできる。(県看護大)
 ○卒論発表会への参加、模擬講義の実施、キャンパス見学等も歓迎。(信州大学農学部)

<地域との関わりについて：企業から>

- 新しい高校は上伊那随一の進学校であることが求められている。受験勉強を通じて、やり抜く力を身に付ける。
 ○国語や英語などの言語や論理的な考え方を身につけてほしい。グローバルな社会、SDGs等海外へも目を向ける。
 ○郷土愛プロジェクトの中で、いろいろな企業と学校をつなぐ情報共有の場をつくっていただければと思う。

<今後の懇話会について>

- 授業の在り方・進め方について、懇話会の中で扱っていただきたい。

今後の検討課題

- 第1回から第5回までの再編実施計画懇話会の論点整理。
 ○授業の在り方についての議論。
 ○伊那新校の学びの姿に対する意見交換。